



# 道央家族会 会報5号



## ～市民の郷祭り～ (北ひろしま福祉会)

北ひろしま福祉会主催、第3回市民の郷祭りが8月23日(土)に開催されました。前日より天候が心配されましたが、祭り当日には天候も回復し、北広島市を始め、ご来賓、利用者家族、近郊地域からも多くの方々のご来場がありました。



ステージプログラムでは、利用者家族で結成されたバンドや、コココーラバンドなど、多くの出演者により会場が盛り上がりました。出店も30程あり、ご来場のお客さまも楽しんでいる様子でした。

第1回からの市民の郷祭りのテーマに掲げております「つなげる未来」のとおり、来年度以降も地域の皆さんと、交流の場として繋がりが深まることを願っています。



## ～共生の森プロジェクト 桜植樹祭～ (北ひろしま福祉会)

北ひろしま福祉会では、10月24日に桜植樹祭がありました。桜のオーナーになっていただいた方々自らが植樹し、各オーナー名のプレートも添えられました。この日は地元の幼稚園児たちも含め、140名程集まりました。

障がい者も高齢者も、大人も子どもも、わけ隔てなく集える自然公園を造りたいとの思いに賛同したメンバーが集まり、豊かな自然環境の中に、これから数年かけ公園や遊歩道を造ります。

春は桜のお花見、夏は水場や東屋のある公園や果樹園でのふれあい、秋は紅葉を眺め遊歩道を散歩し、冬はモミの木のクリスマスツリーのイルミネーションを楽しむ。そんな夢のような四季を体感できる空間、それが「共生の森」です。

少しずつ道が広がり、障がい者施設共栄・とみがおかの裏側より進み、特別養護老人ホーム東部緑の苑への道が完成しつつあります。

これから、5年先、10年先も桜の成長を見守りながら交流を深めていきたいと思っています。



## ～地域交流会～（恵庭光風家族会）

9月10日(水)、地域交流事業で恵庭市内の小中学校特別支援学級生徒・教職員 161名の皆さんと光と風の里の利用者・職員200名、家族会11名 総勢372名の大勢で楽しい交流会が行われました。



朝からあいにくの雨降り、急遽、交流ホームで開催されることになりました。煙モクモクの中、美味しくジンギスカンを囲んで、みなさんご機嫌でした。男性の利用者さんは食欲旺盛で、あっという間にお肉が無くなりました。



家族会からは、準備・後片付け等11名がお手伝いで参加しました。参加者が多い割にボランティアが少なく、てんてこ舞いだったので、来年はもっと多くのご協力をお願いしたいと切に思いました。



## ～第11回日韓知的障がい者サッカー交流大会～（千歳いずみ学園保護者会）

9月14日、知的障がい者による「第11回日韓知的障がい者サッカー交流大会」が社会福祉法人千歳いずみ学園と大韓知的障がい者サッカー協会が主催し、千歳市と社会福祉法人長沼陽風会等の後援を受けて千歳市青葉公園陸上競技場で開催されました。

日韓交流のサッカー大会は、平成13年の神奈川県横浜市で始まりましたが、翌年は韓国釜山広域市で開かれて以後、日韓交互に開催されています。

大会当日は、爽やかな秋空が広がり、臨時に設置されたサッカー場の観覧席は、千歳いずみ学園と長沼陽風会のフレンドリーマッチに出場する選手及び引率の職員や保護者の方々が応援に駆け付けています。

大会の趣旨は、日韓両国の知的障がい者福祉及び体育活動を通じた相互交流、特にサッカー発展のために親善サッカー交流大会を開催して、日韓両国国民の障がい者への認識の改善等とインクルーシブ社会構築基盤整備に寄与するとしています。

（次ページにつづく）





今回の大会を歓迎するセレモニーが、開会式に先立ち、千歳科学技術大学よさこいソーラン部「光一天」の協力を得て演舞が披露され開会式に華を添えてくれました。



千歳科学技術大学よさこいソーラン「光一天」の演舞



日韓代表選手が一諸に並んで写真撮影

午後1時に開始された試合は、北海道選抜の頑張りで優位に試合を進め、先制ゴールを挙げ1対0で前半を終了。後半に入ってから、日韓の選手がボールを追って動きが激しくなり、障害のハンデを感じさせないものとなりました。試合の終盤に韓国代表が2ゴールを挙げて2対1と逆転勝利しました。北海道選抜は僅差で敗れましたが、その検討を称えたいと思います。

日韓代表の交流試合後、混成の両国代表に千歳いずみ学園と長沼陽風会の障がい者が加わってフレンドリーマッチが行われました。両施設の選手が鋭刺とした動きでボールを追いかけている姿が印象的でした。大会を準備し運営に携わった社会福祉法人いずみ学園と長沼陽風会の役員をはじめ、職員の方々の支えがあったことを付け加えておきます。

今後とも、日韓知的障がい者のサッカー大会が継続して開催され、その輪が日韓両国の友好拡大へと発展することを願うものです。



#### ～福田和臣先生研修会に出席して～（土門 誠）

10月1日(水)午後1時から札幌市中央区民センターで研修会が開催されました。合計176名が出席し、その中、道央からは39名の出席がありました。

講師の福田和臣先生は、知的障がい者施設の常務理事の他、成年後見制度の普及と定着をすすめる会代表の他、自殺予防活動を推進する社会福祉法人理事長、日本知的障害者福祉協会編集出版企画委員会委員長など、幅広い活動をしています。

福田先生は、成年後見制度の欠陥の一つ、被後見人になると選挙権がなくなることを訴えるために町会議員に立候補しましたが、これが選挙の争点にならずに残念ながら落選しました。この選挙権の喪失は、後年改められましたが、あらゆる手を尽くして欠陥を是正しようとした先生の姿勢がうかがえます。

(次ページにつづく)

福田先生は、成年後見制度は障がい者の権利保護について国が責任を持って制度化したものであると捉え、積極的に推進しました。このため、常務理事を務める施設でも支援費制度の開始の際に、保護者会で何度も説明して最終的には、契約は本人又は後見人に限る方針を示して、これに応じられない場合は、期限はつけましたが退所してもらうことにしました。

知的障がい者の権利を擁護することは勿論大切ですが、ちょっと厳しいのではないかと思ったのは私一人では無いと思います。

しかし、措置のときは知的障がい者である利用者の意志・権利は全くといっていいくらい無視されていました。支援費制度では契約行為が必要になり、成年後見制度は、最初は介護保険の為の制度でしたが、こうしたことのために創設された制度です。この機会を逃すことはない。知的障がい者はサービスを決定する主体となることを国が保証している。やっと国は、障がい者の権利擁護を制度化した。こうした思いが福田先生の根底にあります。

質問事項の回答も単なる法律解釈ではなく、実務者として、知的障がい者本人も含めた当事者の人間関係、最近の裁判所の判断の傾向等、ユーモアも交えて、私のような素人にも理解できる大変分かり易いものでした。

あふれる福田先生の情熱と行動力にはただただ敬服するばかりで私など足下にも及びませんが、知的障がい者の親として親亡き後を考えさせられる講演会でした。



### ～全施連全国大会 in 愛知～

第10回記念一般社団法人全国知的障害者施設家族会連合会全国大会 in 愛知が10月21日・22日にロワジールホテル豊橋で開催されました。参加総数480名。北海道からは20名が参加しました。

第1日目、開会式、情勢報告、鼎談、全員参加型討論会、経験交流会等が催されました。

開会式で、大村秀章愛知県知事の祝辞がありました。知事本人が出席ということで、どよめきと、感心にも似た空気が流れました。お話の中で、重要政策課題の一つに「障害者支援」を掲げていました。さまざまな素晴らしい取り組みが具体的に挙げられ、聴衆は期待に胸を膨らませました。本当に実践されることを願うばかりです。

情勢報告が次の6項目でなされました。

1. 消費税と安部政権の社会情勢 2. 障害者総合基本法 3. 障害支援区分 4. サービス等利用計画と介護保険優先摘要問題 5. 配置医師 6. 制度改革と今後の課題

鼎談要旨、「新たな生活施設の具体像～終の住処はどこですか～」のテーマで、北九州市立大学文学部教授 小賀久氏が、「旧態然とした施設はいらない」、「新しい施設像」、「当事者・家族と施設の協働を」等について、スライドを参照しながら講演されました。本人曰く、「いつの間にか全施連の顧問ということになっていたの、びっくり！」

次に、埼玉大学教育学部准教授 宗澤忠雄氏が、「障害のある人の暮らしと権利擁護の新時代－障がい者権利条約の批准を受けて」のテーマで、「障害者の権利条約が批准されるまで」、「暮らしの中の権利擁護に関する具体的な課題」、「差別・虐待の克服を目指す希望の根拠地としての暮らし」等について講演されました。

(次ページにつづく)

全員参加型討論会において、各円卓を各地区からばらばらに集まるようにしたようで、それはそれで一定の成果があったものと思われませんが、個人的には各地区ごとに集った方が良いのではないかと思われました。そうすることによって、道家連としての考え方を強く発信することも出来たはずですが。

経験交流会では、大会参加者が、さらに相互に意見交換、情報交換を深めるとともに、親睦を図るというものでした。しかし、鼎談時と全員参加型討論会時の円卓のメンバーが参加しない円卓が使われなくなり、残った数人のメンバーが他の空席のある円卓に移動しなければなりません。

第2日目、討論会報告。ここでは前日の全員参加型討論会の数か所の円卓の内容しか報告されないシステムでした。

休憩を挟んで、討論会報告・まとめでは、コメンテーターが発言に対してコメントするのですが、発言に対して、その機能が発揮されない場面がありました。

その後、大会決議案として、次の6項目(詳細省略)を選択し、閉会式となりました。

1. 知的障害のある人たちが、その生涯を通じて、安全かつ安心な生涯を選択できる仕組みを実現する活動
2. 知的障害のある人たちへの支援は、個々人の障害特性と支援の必要性にもとづいて行われることを求める活動
3. 障害のある人たちの福祉の向上に、志を同じくする障害団体との連携を深める運動

収穫がありました。南全施連副理事長の入所施設では、終の住処＝安住の地という考えと、看取りを実施していることです。看取りの際、訪問医で問題は無いということです。そして、慰霊碑の準備もしているとのこと。

私たちの運命共同体としての施設。施設と家族会とが手を取り合って、より良い方向に踏み出したものです。



#### ～編集後記～

「福田和臣先生研修会」の全文及び、「全施連全国大会 in 愛知」の報告に関しては、道家連会報「ほっと」で、詳しく掲載される予定ですので、お楽しみに！！



道央地区知的障がい児・者家族会 会報 5号 2014年10月発行  
編集・発行 道央地区知的障がい児・者家族会 会長 畑 誠一